

令和2年度第2回神奈川県公私立高等学校協議会
議 事 録

- 1 日 時 令和2年8月4日(火)
10時00分～11時30分
- 2 場 所 国際言語文化アカデミア 1階 101研修室
- 3 出席委員等 田沼 光明 高木 茂 大澤 一仁 竹内 博之
柏木 照正 藤野 利夫 鍋山 英彦 細見 勝典
山中 毅 増田 年克 上條 茂 井坂 秀一
鴨下 博厚

(敬称略)

座長（山中委員）

おはようございます。「令和2年度第2回神奈川県公私立高等学校協議会」を開催します。本日は大変お忙しい中、また、コロナ禍の中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。計画策定に向けて貴重な時間でございますので、活発な議論、意見交換ができればと思います。どうぞよろしく願いいたします。私は神奈川県私学振興課長の山中でございます。日頃から教育行政にご尽力いただき誠にありがとうございます。

それでは、開催させていただきます。

はじめに神奈川県公私立高等学校協議会の設置及び運営に関する要綱第4条第2項に基づきまして、座長を互選により定めたいと存じます。

従来より私立学校所管課長であります私学振興課長が座長を務めさせていただいておりますので、今年度も同様に私学振興課長が座長を務めさせていただくことで、ご異議ございませんでしょうか。

全委員 異議なし。

座長（山中委員）

ありがとうございます。それでは、座長を務めさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

なお、本協議会は原則公開とされております。傍聴者等につきましては既に入室していただいておりますので、ご承知おきください。

それでは、お手元の次第に基づき議事を進めさせていただく前に、私のほか、今年度の新委員をご紹介します。

神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課長の増田年克委員でございます。

増田委員

高校教育課長・増田でございます、どうぞよろしく願いいたします。

座長（山中委員）

新任は増田委員1名になります。その他の皆様におきましては、昨年度同様、引き続きとなりますのよろしく願いいたします。

なお、本日は横須賀市教育委員事務局学校教育指導課長・高橋直樹委員、神奈川県PTA協議会の代表・足立原隆之オブザーバーが欠席でございますのでご承知おきください。

それでは議題に入る前に、このたび「かながわ定時制・通信制・高校教育を考える懇談会」から、7月30日付けで文書が提出されております。なお、この文書の表題は請願となっておりますが、要請として提出されたことを提出された懇談会の方に確認しております。

提出された文書の写しを机上に配付してございますが、文書を提出された方から口頭陳述の申し入れがありましたので、本日議事に入る前に陳述の機会を設けたいと思いますが、よろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

座長（山中委員）

それでは、文書を提出された懇談会の代表の方、恐れ入りますが、時間は3分以内ということで陳述をお願いします。

陳述者

おはようございます。保永博行と申します。かながわ定時制・通信制・高校教育を考える懇談会を代表して陳述を行います。（資料説明）

座長（山中委員）

それでは次第に従いまして議事を進めさせていただきます。議題の「1 令和3年度の高等学校生徒入学定員計画の策定について」です。例年この時期に入学定員について当協議会において精力的にご議論いただき、公私間での合意を得て、その結果を神奈川県公立高等学校設置者会議に報告することが、当協議会としての役割となっております。

具体的な協議に入ります前に、まず昨年度までの定員協議の経過等について、簡単にご説明させていただきます。平成22年度から3年間は公立中学校卒業予定者の6割を全日制公立高校の入学定員とする基本比率により行っておりました。平成25年度の定員計画策定時に見直しを行いました。その際、定員割り振り方式を採用するに至った経緯、あるいは、これまでの実績や進学率の推移を踏まえた上で、公立の定員枠だけを決める方式から、公私がともに責任を果たす方式へと見直すことの必要性についての議論がなされました。

議論の結果、公立、私学がこれまでの実績、あるいは施設規模、それから教員規模等を踏まえ、進学率の向上の視点のもとに総合的に判断をした上で、各々が実現を目指す定員目標を定めて、その実現に向けて最大限努力するという方向で平成25年度定員計画は決定されたものです。

その結果として、全日制の進学率も上昇し、不本意入学者数も減少する等一定の成果があったとして、引き続き平成26年度以降の定員計画も定員目標を設定する方式により計画を策定することで合意をいただいております。

本日は委員の皆様にお集まりいただき開催する今年度初めての協議会となります。これまで協議し合意してきた様々な取組や、令和2年度の入学者選抜結果等について配布資料を基に事務局から報告をさせ、その後、これまでの実績や昨年度の定員計画についての検証を踏まえながら本日の協議を進めたいと考えております。

それでは、資料の説明を事務局からお願いします。どうぞよろしく願いいたします。

事務局

それでは、資料の説明をさせていただきます。（資料4～資料7－2を説明）

座長（山中委員）

ありがとうございました。それでは説明のありました資料に基づき協議に入ります。入学者選抜の実績が報告されましたので、令和2年度の定員計画についての検証をお願いしたいと思います。昨年度の定員計画を踏まえまして、今年度の入学者選抜の実績に対する評価を公立・私立それぞれをお願いしたいと思います。それでは公立側からよろしく申し上げます。

増田委員

よろしくお願いたします。今年度の入学者選抜の実績についての評価でございますが、昨年度は公立中学校の卒業者数が約1,600名余り減少しておりました。その関係で昨年度、定員協議を踏まえまして、設置者会議には公立高等学校の目指す目標としては41,100名を報告させていただいております。この41,100名は前年と比べますと1,400名ほど減少させた数字を報告させていただきました。

41,100が県内の公立中学校卒業予定者に対して公立として掲げた数字で、先ほど説明にありました資料の4－2にお示ししておりますが、「県内公立 中卒者」の欄、その中の全日制高等学校、県内公立高校の欄を確認していただきますと、40,637という数字が入っております。41,100名に対して県内公立高等学校進学者数40,637名が今回の実績になります。目標として掲げました41,100名に対しましては、実績数40,637名となりますので目標値には463名ほど届いていない状況になります。目標値41,100名を掲げましたので公立高校といたしましては、各学校のそれぞれの定員を定める中で、できる限り目標を達成するように努力してきたところでございますが、昨年度については残念ながら目標値に届いていないところでございます。既に公表されたものでご覧になられている委員の方もいらっしゃると思いますが、定員に届かなかった学校もいくつか出ているのが現状と認識しているところでございます。

昨年度、この会議でも少し話題になっておりましたけれども、中学校卒業者の進路選択の多様化等、様々な要因がそこにはあると考えているところです。今回は目標値に届いていないということもありますけれども、従来通り公立、私立がともに定員目標を定めるという形で、ここ数年取り組んできた中で、進学率向上については、一定程度成果をもたらせてきていると認識しております。今後もしっかりと公私協調しながら進めていくことができたらと思っているところでございます。

また、併せまして、今年度につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響がどういう形で出てくるのか、不透明な要素が非常に多くあると考えているところでございますけれども定員目標を定めて、公立も私立も取組み方針に基づいて努力をしていくこと、そういった

ことが今後も必要な状況なのではないかと考えております。

座長（山中委員）

ありがとうございます。それでは、私学側からお願いいたします。

田沼委員

資料4-2の県内私立高校の欄をご覧くださいますと14,519という数字が出ております。昨年、私学として宣言いたしましたのが14,550でございますので、30名ほど採れなかったことは事実でございますが、例年の動きをみまして目標値と実績数の差が一番小さいものになっているのではないかとというふうに感じておりました、よく採れたのではないかと考えております。私学は安定性ということが非常に大きく重要な内容になってまいりますので私学は適正な規模で募集をいたします。募集の人数が大幅に上下するということできませんので、その中では、この辺の数値が一定になっていくということが、ある程度安定した数で推移をすることが望ましいではないかと考えております。

この背景といたしまして、県担当局が学費補助の努力をしていただきましてありがたく思っております。これによって経済的な理由で私学へ来れないと、昔はそういうようなことがあったのですけれども、今はそういうことがかなり払しょくされてきているのではないかと印象をもっているところでございます。

この4月で新型コロナウイルス感染症の影響、増田委員のおっしゃるとおりでございますけれども、そちらにも憂慮しながら、色々考えていけないといけないということを考えております。

座長（山中委員）

ありがとうございます。それでは、今それぞれの評価ございましたけれども、それぞれの評価について、意見交換できればと思いますけれども何かございますでしょうか。

藤野委員

田沼委員の私学側の実績の評価について、補足をさせていただきます。

ここ4、5年の流れを確認したいと思います。資料4-3 4公立中学校卒業生進路状況別進学率です。今神奈川の高校進学が抱えている大きな課題として、1つ神奈川県内の公立私立の他に県外等へ、今年の場合には5,601名、8.3%、ほとんど東京の私学だと思われましても、やはりここに流れていってしまっていること、これ大きな課題の1つだと思います。もう1つは、定時通信のことですけれども一番右側の表の通信制県内外とありますが、ここへあまりに多くの中学校卒業生が進学している。県内の公立の通信に進む生徒達も先ほど確認した表のように一定程度いますけれども、やはりかなりの生徒が広域通信へ進んでしまう3,222人、4.8%、5%に迫る勢いになってきている。これは首都圏全体の傾向ではありませんけれども、神奈川はかなり前からこの傾向があります。私たちの立場としては、憂慮するという言い方はおかしいかもしれませんが、先ほど増田委員の中学生達の進路希望の多様化と捉えるだけではどうなのかなと、やはり大きな課題があると思っております。

最終的に神奈川県内の公私立の動向、ここ4、5年の動きを確認しますと、平成28年度、この年は前年度より653名増えた年ですけれども、公立側が43,528、私学側が14,521、そのあとはずっとマイナスが続きまして、-401、-856、-398、そして令和2年度は-1,627。こういう中で神奈川県内の公私立合わせて、少ない年で82.1%から82.8%。やはりこの合計の数をもっともっと増やしていかなければいけないというのが、やはりここでの協議の大きな目標ではないかと思っております。

その中でも特に私学を確認しますと、14,521の後、公立中卒業生減少の流れの中ではありませんけれども、少しずつですけれども実数、率ともに微増している。これはやはり古くからの神奈川県の私立高校生に対する学費補助の制度の大幅な整備拡充、それから制度の意識的な普及、宣伝活動の賜物ではないかと思っております。

特に今年からは安倍政権の高校無償化ということで、全国私立高校に対する大幅な拡充がありました。2年前からはそれまでの神奈川県独自の学費補助の制度にプラスして全国に先取りする形で大幅な拡充がありました。このことは大変に大きいと思います。特に東京などには無い入学金の補助、今まで10万円でしたけれども、これが大きく拡充し、ついに神奈川県私学の平均入学金20万8千円まで到達している。つまり、中学生たちが私学も安心して選べる、そういう状況になってきている。生徒たちが安心して公立に行きたい子は公立、私学に行きたい子は私学へという、ほんの小さな数の動きではありますけれども、そういう傾向を私学側からは見てとれるのではないかなと思います。

座長（山中委員）

ありがとうございました。その他にご意見等ございますでしょうか。

現状、これまでの政策的なこと、課題等、色々な意見をいただきました。そういったことを踏まえ次にいきたいと思えます。

定員目標を設定する方式について議論したいと思えます。先ほど説明いたしましたとおり、令和2年度の定員計画策定については「率による定員割り振り方式」から「定員目標を設定する方式」に変更して8回目になります。この方式についてご意見を伺いたいと思えますので公立側からお願いします。

増田委員

先ほども少しお話をさせていただきましたが、定員目標を設定する方式にしたことによりまして、一定程度進学率については下げ止まっているという言い方は悪いのですけれども、減少傾向を何とか抑えており、大きく減少するということを防ぐことはできている。先ほど藤野委員からも発言がございましたけれども、目標値をしっかりと高いところに設定しておくということは公私ともにしっかりと考えていく上で非常に重要なことと考えておりますので、現状のこの方式について継続をしていくことが今後も必要なのではないかと、そういう考え方を持っているところでございます。

座長（山中委員）

ありがとうございます。私学側はいかがでしょう。

田沼委員

私学側もこの形での継続でよろしいのではないかと考えております。

先ほどから何度も出ていることですが、全日制進学率の向上ということで努力をしております。広域通信制の問題というのは、大変大きい問題となっております、中学生が本当に広域通信制に適する生徒が行っているのなら良いのですが、中には全日制に適する生徒が広域通信制に行ってしまう場合もあるのではないかと考えるのですが、そういうふうなところも含めまして、大きくなっているということを踏まえながら、全日制の進学率向上を考えていくというようなことを、今の形でやっていくのがよろしいのではないかと思います。

座長（山中委員）

ありがとうございます。横浜市、川崎市の委員の方はいかがでしょうか。

鍋山委員

横浜市でございます。今回は様々な数値をお示しいただいたわけですが、公立中学校卒業者の進路状況別進学率を確認しますと、微減ではございますけれども全日制進学率が引き続き90%を超えております。一方で、広域通信制と言われるようなところへ進学が増加していることが非常に課題ではございます。横浜市といたしましても、公立中学校卒業予定者の増減といったものを勘案しながら、全日制進学率向上が前進していくという意味で、公私ともども定員目標の実現に向けて、各々努力していくということが大切なのではないかと考えています。

座長（山中委員）

ありがとうございます。川崎市はいかがでしょう。

細見委員

川崎市でございます。これまでもご意見等ございましたけれども、川崎市としていたしましても、これまでの経緯を勘案しまして、一定の成果が認められてきたということで、今後とも全日制進学率向上に向けて、現在の方式の継続が必要ではないかと考えております。

座長（山中委員）

ありがとうございます。本日はオブザーバーもいらしていただいておりますので、オブザーバーからご意見ございましたらお願いします。

上條オブザーバー

公立中学校校長会代表の上條でございます。定員目標を設定する方式でよろしいのではないかと考えております。

井坂オブザーバー

高等学校長代表の柏陽高校の井坂でございます。

昨年もオブザーバーとして参加させていただきまして、先生方から広域通信制の発言がありました。数字を確認しますとまた増えており、大きな課題として取り組んでいけないといけないと思っていますし、学校側でも確かに本校でも途中から入っている子もいますので大きな問題だなと感じております。策定につきましては公私協調の中で進んでおり、誠にありがたいと感じております。

座長（山中委員）

色々のご意見をいただきましたけれども、公立、私立、市町村間もここ数年の定員計画策定方式で一定の成果はあったかと思っております。

続きまして令和3年度の定員計画の協議をどのように進めていくか、その方向性についてご意見をいただきたいと思います。今までの発言を総括すると令和3年度定員計画の策定にあたって、令和2年度定員計画の策定方法を継続することでいかがでしょうか。

全委員 異議なし。

座長（山中委員）

引き続き令和3年度に向けましても、同じような方式で継続することとしたいと思います。次に実際の計画策定について、議論していきたいと思っております。令和3年度入学定員計画について進めるにあたり、本日の資料3昨年度の合意文書について協議を進めさせていただきます。

まず、はじめに「基本的な考え方」についてです。この部分について、例年継続してきた基本的な考え方にある①、②、③の3つの視点を、理念、基本精神等として引き続き尊重しつつも、一昨年は「(3) その他」の「私学の役割」で「学則に定められた収容定員を踏まえた安定的な学校運営に努め」という文言が追加されました。一昨年度の議論を踏まえて、昨年度はその考え方を踏襲したものと認識しておりますが、令和3年度の定員計画策定に向けて公立、私立双方のご意見を伺いたいと思っております。

まずは、公立側のご意見を申し上げます。

増田委員

基本的な考え方につきましては、1の「視点」、2の「考え方」、3の「その他」と整理をさせていただいておりますが、特にこの3の「その他」のところでは、公立の役割、私学の役割ということで記載をさせていただいております。

ここにあるとおり、公立の役割につきましては「生徒一人ひとりの希望と適正に応じて、多様な選択ができるよう、幅広い進路先としての役割を担い、県民ニーズに応える。」と、

まさにそのとおりでございますので、ここについて修正、意見はございません。

座長（山中委員）

では、私学側お願いします。

田沼委員

私学の役割につきましても、「建学の精神にも基づく、特色ある教育を展開し、学則に定められた収容定員を踏まえた安定的な学校運営に努め、県民ニーズに応える」ということで、そのとおりでございますので、異議はございません。

座長（山中委員）

ありがとうございます。次に「2 定員計画の策定」についてです。この部分は当該年度の定員計画策定に当たっての重要な部分ですので、十分な協議をお願いしたいと思います。

まず、（1）令和3年度の定員計画の方式は、継続する方向で確認済みでございます。公私の募集計画を10月までに公表することについて、今年も同様でよいか確認させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

増田委員

この記載のとおりで異議はございません。

田沼委員

この記載のとおりで異議はございません。

座長（山中委員）

2の（1）については、時点修正はありますが事務局で修正することとします。

続きまして（2）実現を目指す定員目標設定の考え方についてです。公立私学それぞれが定員目標の考え方について、ご意見いただけますでしょうか。

増田委員

公立高校の考えでございますが、今年度、先ほど資料にも提示ございましたとおり、今年度まで公立中学校の卒業生が減少傾向です。今年度も2,000名余りの減少が見込まれているところで数値的に非常に厳しい年になっている認識でございます。加えて、先ほども少しお話させていただきましたとおり、新型コロナウイルス感染症の影響がどのような形で出てくるのか、といったところも慎重に見極めていく、そんな必要性があるのではないかと考えているところでございます。昨年度も大きく目標値を下げている部分もあるのですがけれども、ある程度ここは下げざるを得ないということは当然というふうに考えていますので、これについても公立私立ともに、先ほどおっしゃられたとおり目標の設定というところに重きを置き、全日制進学率の低下を招かないようにといったところで、しっかりと共有した上で、定員策定ができればと思っているところでございます。

座長（山中委員）

ありがとうございます。では、私学の方お願いします。

田沼委員

私学側といたしましても全日制進学率の向上につきましては、努力をすることで一致しているわけですが、私学の場合は先ほどありましたように学則に定められた収容定員がございします。年によって多少のプラスマイナスというのは柔軟に考えなければいけないとは思いますが、ある程度安定的な推移ということを考えて参りたいと思ひます。

座長（山中委員）

ありがとうございます。次に（3）その他ですが、修正等の必要があるか確認したいと思ひます。

増田委員

公立側は修正ございしません。

田沼委員

私学側も修正ございしません。

座長（山中委員）

それでは「3 今後の総合的な対応」になります。

（1）経済的な課題を抱えた生徒の受け入れ対策については、この辺りで新しい取り組み、就学支援金ついて等、記載をどうするかですがいかがでしょうか。

増田委員

公立の関係で新たに加える取り組みはございせんので記載のとおりでお願いします。

田沼委員

私学側も修正ございせんので記載のとおりでお願いします。

座長（山中委員）

続きまして、（2）不登校生徒等の受け入れ対策についてはいかがでしょうか。

全委員 異議なし。

座長（山中委員）

続きまして、（3）クリエイティブスクールについて、ご意見いただきたいと思ひますが

いかがでしょうか。

増田委員

公立学校の関係ですけれどもクリエイティブスクールについては、引き続きこのような形で取り組みを進めていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

田沼委員

公立高校のことをございますので異議ございません。

座長（山中委員）

続きまして、（４）定時制等の受け入れ対策についてはご意見ございますか。

全委員 異議なし。

座長（山中委員）

次に、（５）その他の対策です。新しい取り組みがあるかどうかですが、何か配慮、記載等の必要なものがあれば発言をお願いできればと思います。

増田委員

ここについては1点お諮りできたらと思っております。

先ほどよりお話をさせていただいているとおり、令和3年度入試にあたりましては、新型コロナウイルス感染症、この対応がやはり求められると思っているところでございます。これは勿論、公立私立を問わずといったところで、対策を取っていかなくてはいけないものと考えております。具体的話としては、公立に関しましては、既に発表させていただいておりますけれども、臨時休業の影響による中学生の学習状況の把握、そういったことが必要となってきます。県立では具体には、学力検査において一部出題範囲を限定するという措置を発表させていただいたところでございますが、そういったところを私学にも情報提供させていただき、また私学でもお考えいただいていることを承知しておりますが、そういった中学生の学習状況に対する配慮であるとか、あるいは公立でいえば学力検査、私学でいえば入学試験の当日の感染予防対策への配慮。今現在もまだ感染の状況予断を許さない状況でございますが、このまま感染が拡大していった場合に本当に今提示をしている日程の中で入学者選抜を計画通り実施できるのか、という不安も受検生あるいは保護者が抱えているのではないかと思います。

そういったところでの追検査の実施の可能性であるとか、そういった日程のお話であるとか、そのあたりについて公立においても、また私立においても受検生に不利益を被らせないように、また、そういったところで不安を抱えないようにというところで、配慮をしますということをこういった文書の中でお示ししていくのはどうかというところを考えているところでございますがいかがでしょうか。

座長（山中委員）

今ご意見をいただきましたコロナの関係ですけれども、私学側はいかがでしょうか。

田沼委員

受験生に不安を与えないということでの配慮というのであれば、異議はございません。

座長（山中委員）

今の意見について、他にご意見ございますか。

竹内委員

コロナに対する対策は絶対必要だと思うのですが、入試時期に感染状況がどうなるかわかりません。追試験が公立の方で発表されていますが、それに合わせて私学の方も同様の発表ができるかというところは難しいと思います。公立の発表に合わせた形で何か私学として配慮するぐらいかなと思っております。また、入試の出題範囲についても発表がありました。この後の状況でまたその範囲も変わってくるかもしれませんね。そこを上手く書いていただきたいなと思っています。必ずこうするというような対策ではなくて、状況に応じるという部分が必要かなと思います。

座長（山中委員）

ありがとうございます。

今の意見を踏まえまして、基本的には（５）その他のところに、コロナ対応について記載を加えていくという方向で、検討を進めていくことでよろしいでしょうか。案文につきましては、事務局で調整させていただきまして、次回、検討させていただきたいと思います。

座長（山中委員）

続きまして、「４ 昼間の時間帯で学ぶ進学率(昼間進学率)の活用」について、ご意見ありましたらお願いします。

全委員 異議なし。

座長（山中委員）

最後に、「５ 公私立高等学校生徒全日制入学定員の目標設定の考え方及び計画」です。ここがまとめの章になります。公立・私立の具体的な入学定員の目標を記載するところがございます。本日、令和２年度入学者選抜の結果を確認したところがございますので、目標数値がここで直ちに定まるものではないと思います。

そこで、定員目標については、令和２年度入学者選抜の結果を持ち帰っていただき、改めて公立・私立でしっかりと検討していただき、これも次回ご提示をお願いしたいと考えておりますけれども、そのような形で進めるということによろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

座長（山中委員）

ありがとうございます。これまで出された意見を踏まえて、次回に向けて整理をしていきたいと思っておりますので、目標の数値につきましてはよろしく申し上げます。

それぞれの立場からご意見をいただきましたが、令和3年度の定員計画におきましては、昨年度に続いて「公私が自らの責任において実現を目指す定員目標を設定する」ことにより策定することで、公私の考え方は一致していることは確認できていると思っております。

本日、入学者選抜実績等の結果を確認したわけですけれども、やはり公私が定員目標の考え方を踏まえた具体的な目標数値をしっかりと検討していく必要があるかと思っておりますのでどうぞよろしく申し上げます。

他に全体を通じてご意見等ございましたら、受け付けしますがよろしいでしょうか。

鴨下オブザーバー

私立保護者会連合会の鴨下と申します。

先ほど、発言を求められた時は学校間の数値の話でしたので、保護者の立場で口をだすべきではないと思い控えさせていただきました。会議の中でいくつもご意見がありましたけれども、私学を選びやすくなったと言いますか、いろいろな形の支援と言いますか、授業料無償化であったり、入学金の補助であったり、それらが拡充されたことによって経済的なことを理由にして私学を諦めるといようなことが無くなったというのもありますけれども、やはり各私学、それぞれ建学の精神をもって良い学校づくりをされていて、その学校に入れたいというご家庭が増えている、それも大きいことだと思いますので、安定した数字が続いているのかなと思っております。

ただ、県外に出ていかれてしまう、その数字が大きく、大変気になっております。私は東京都民でございまして、子どもが4人いて上の2人が東京都の私立に行き、下の2人が神奈川県私立に行っておりますが、やはり学校の魅力それを感じてこの学校に入れたいということで入れさせていただきましたので、その学校の魅力をどうやって発信していくかということがとても大事だと思っております。また、今年ずっとお話がでておりますけれども、コロナの影響で私学展とかの機会が中止になっていて、受験生が学校の魅力を直接知る機会というのが減っている。これもすごく気になってございまして、私立も公立もそうだと思うのですけれども、学校の魅力を皆さんでネット等を使って等で発信していくようなことを積極的にやらないと生徒が選択する、その時に色んな情報を取れなくなっていくという心配があります。その辺も協力のご検討いただけたらと思っております。

座長（山中委員）

ありがとうございます。それでは色々なご意見をいただきました。

次回ですが協議会につきましては、9月の設置者会議を目指して8月下旬までに会議を開催する方向で考えておりますので、事務局を通じてご連絡させていただければと思います。

また、文章の修正等につきましては、本日いただいたご意見を踏まえまして、事務局で修

正案を作成の上、次回において提示させていただきたいと思っております。そういう形で皆さんよろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

座長（山中委員）

ありがとうございます。では以上となります。本日の議事はこれで全て終了いたしました。大変お忙しい中ありがとうございました。引き続きどうぞよろしく願いいたします。皆さんお疲れ様でした。